

あかるく かしこく たくましく

令和5年7月5日 No. 16 文責：校長 佐野紳二

国語の教科書のハナシ 昔から教科書に載っている物語は？

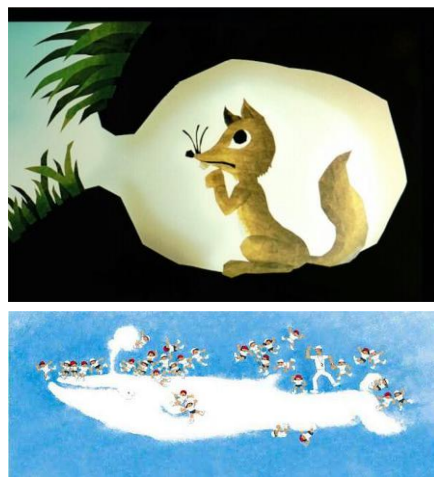
国語の宿題で「音読」が出されることがあります。低学年のうちはおうちの方に聞いていただき、印や○をいただくことになっているので、お父さんやお母さんも教科書にどんな作品が掲載されているか、比較的好くご存じだと思いますが、高学年になるにつれて音読を聞く機会が減ってくるので、教科書にどんな作品が載っているかも分からなくなってくるかも知れません。

山梨県では以前から、光村図書の国語の教科書を使用しています。(少なくとも、私が教員になった35年くらい前からはずっと光村図書の教科書を使用しているので、お父さんやお母さんが小学校で国語の勉強をしたときには、多くの方が光村図書の教科書を使って学習していたものと思われます)近年、学力観の変化に伴い、国語の教科書も一昔前のものとはだいぶ変わってきています(具体的には「話す」と「書く」の内容が多くなったように思います)が、中には長い間ずっと変わらずに教科書に掲載されている作品もあります。そこで今日は、現在、教科書に載っている作品が、いつごろから教科書に掲載されているかを調べてみました。

教科書に載っている物語と初めて教科書に掲載された年

学年	教材名	初めて教科書に掲載された年
1年	はなのみち	昭和55年
	おおきなかぶ	昭和52年
	おむすびころりん	昭和55年
	くじらぐも	昭和46年
	ずうっと、ずっと、大すきだよ	平成4年
	たぬきの糸車	昭和52年
2年	ふきのとう	昭和61年
	おてがみ	昭和55年
	スイミー	昭和55年
	スーホの白い馬	昭和46年
3年	モチモチの木	平成4年*
	ちいちゃんのかげおくり	昭和61年
4年	一つの花	昭和55年
	ごんぎつね	昭和46年
	白いぼうし	昭和46年
5年	大造じいさんとガン	昭和55年
6年	やまなし	昭和46年
	海のいのち	平成8年
2年	たんぼぼのちえ(説明文)	昭和46年
3年	ありの行列(説明文)	昭和49年

左の表は、現在使用されている国語の教科書に掲載されている物語作品のうち、「比較的長い期間教科書に載っている」と思われる作品が、いつから教科書に掲載されているかを調べたものです。作品名を見ると「あー、懐かしい」なんて思われる作品が多いのではないのでしょうか。改めてこうやって調べてみると、いろいろなことが分かってきます。



発見① 最も長く教科書に掲載されている作品は5つ

今回、調べた中で最も長く教科書に掲載されている物語作品は、「くじらぐも」「スーホの白い馬」「ごんぎつね」「白いぼうし」「やまなし」の5作品でした。昭和46年と言えば、佐野少年（私）が小学校に通っていた頃ですから、そう考えると随分長い間、教科書に載っているんだなあ…と実感します。

発見② 長く掲載されている作品は低学年の方が多い

小学校1年生では6つの作品が長い間教科書に掲載されていますが、学年が上がると長い間掲載されている作品が減ってきます。（理由ははっきりしませんが、多分時代による価値観の変容を受けやすいのが高学年の作品に多いのだらうと思います）

発見③ 多くの作品が教科書に登場したのは昭和55（1980）年

「おてがみ」や「スイミー」、「大造じいさんとガン」など、多くの作品が昭和55年から教科書に掲載されています。この年は、モスクワオリンピックが開催され（日本はボイコットのため不参加）たり、ルービックキューブや任天堂ゲーム&ウォッチが流行ったりした時代です。漫オブームもこの頃からでした。

発見④ 「モチモチの木」は一度教科書から消えて、また復活した

斎藤隆介さんの名作「モチモチの木」が最初に教科書に掲載されたのは、昭和52年でした。しかし、次の教科書改訂のときには教科書からなくなり、再び掲載されるようになったのは平成4年でした。

発見⑤ 随分長い間掲載されている「説明文」がある

2年生の教材「たんぼぼのちえ」は、昭和46年からずっと教科書に掲載されています。3年生の「ありの行列」も昭和49年から。この2作品以外にも1年生の「じどう車くらべ」や「どうぶつの赤ちゃん」も、かなり昔から教科書に掲載されています。

発見⑥ 教科書から消えていった作品

長い間、5年生の教科書に掲載されていた「わらぐつの中の神様」は、この前の教科書改訂で教科書から消えてしまいました。個人的にはとても好きな作品だったので、残念ですが…他にも「つり橋渡れ」や「かさこじぞう」「茂吉のねこ」「手ぶくろを買いに」なども、いつの間にか教科書から消えてしまいました。

いかがでしょうか？今回は、長く教科書に掲載されている作品を採り上げてみましたが、教科書にはこれらの作品以外にも、とても魅力的な作品が数多く掲載されています。ぜひ、ときどき子どもから教科書を借りて、お父さん・お母さんも「読書」を楽しんでみてください。

おまけの話① 佐野の記憶に残っている物語作品

結構どうでもいい話だと思いますが、私が小学校時代に勉強した国語教材のうち、きちんと記憶に残っているのは「ごんぎつね」と「木龍うるし」の2作品くらいです。しかも、どちらも話が印象に残っているわけではなく、「ごんぎつね」はそのころから行われていた教育祭図工美術大会に出した絵に「ごんぎつね」を描いたことを、「木龍うるし」は丁度、学習したのが「辰年」で、友だちに出す年賀状に「木龍うるし」の挿絵の龍を描いたことを覚えている…という感じですが。教職にありながら、学習内容はほとんど覚えていません…。



おまけの話② 佐野が好きだった・印象に残っている物語作品

私が教師になってからの話ですが、子どもに教えるということ抜きにして、個人的にとっても好きだった作品・とても印象に残っている作品がいくつかあります。

野ばら（作：小川未明） 国境を挟んだ老人と青年の友情が、戦争によって引き裂かれてしまう話です。

わらぐつの中の神様（作：杉みき子） いつまでも教科書に載っていてほしかった作品のひとつです。

赤い実のはじけた（作：名木田恵子） キャンディ・キャンディの作者が書いた初恋の物語。当時は画期的でした。高学年を教えることが多かったので、印象に残っている作品も5、6年の教科書に載っていたものに偏ります。現在、教科書に載っている物語作品では、「たぬきの糸車」と「お手紙」、「カレーライス」が好きです。